

末松遺跡

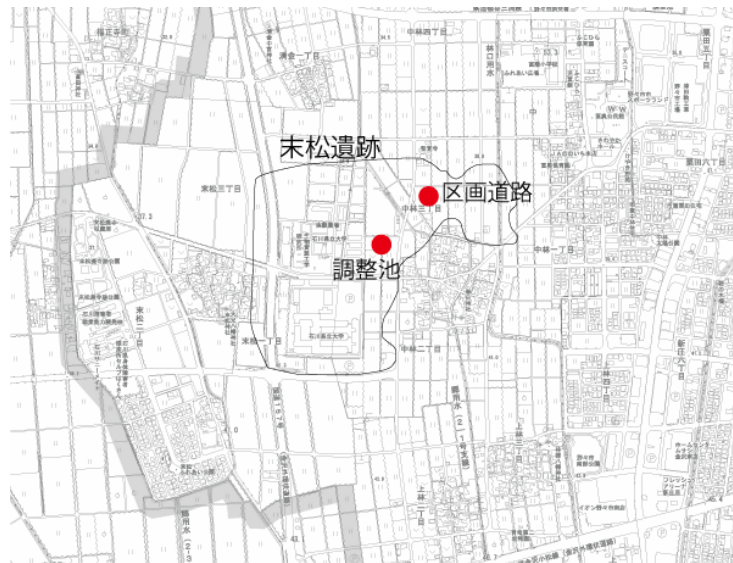
| | |
|-------|---|
| 調査面積 | 3,445 m ² |
| 調査期間 | 令和4年4月1日～令和5年1月23日 |
| 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 遺跡の時期 | 古代、中世 |
| 主な遺構 | たてあな ^{たてあな} 建物、ほったてばしら ^{ほったてばしら} 建物、溝、 ^{たてあな} 竪穴状遺構、土坑、ピット(小穴)、流路 |
| 主な遺物 | はじき ^{はじき} 土師器、すえき ^{すえき} 須恵器、すずやき ^{すずやき} 珠洲焼、中国製磁器(青磁) ^{せいじ} 、せとやき ^{せとやき} 瀬戸焼、だせいせきふ ^{だせいせきふ} 打製石斧 |

概要

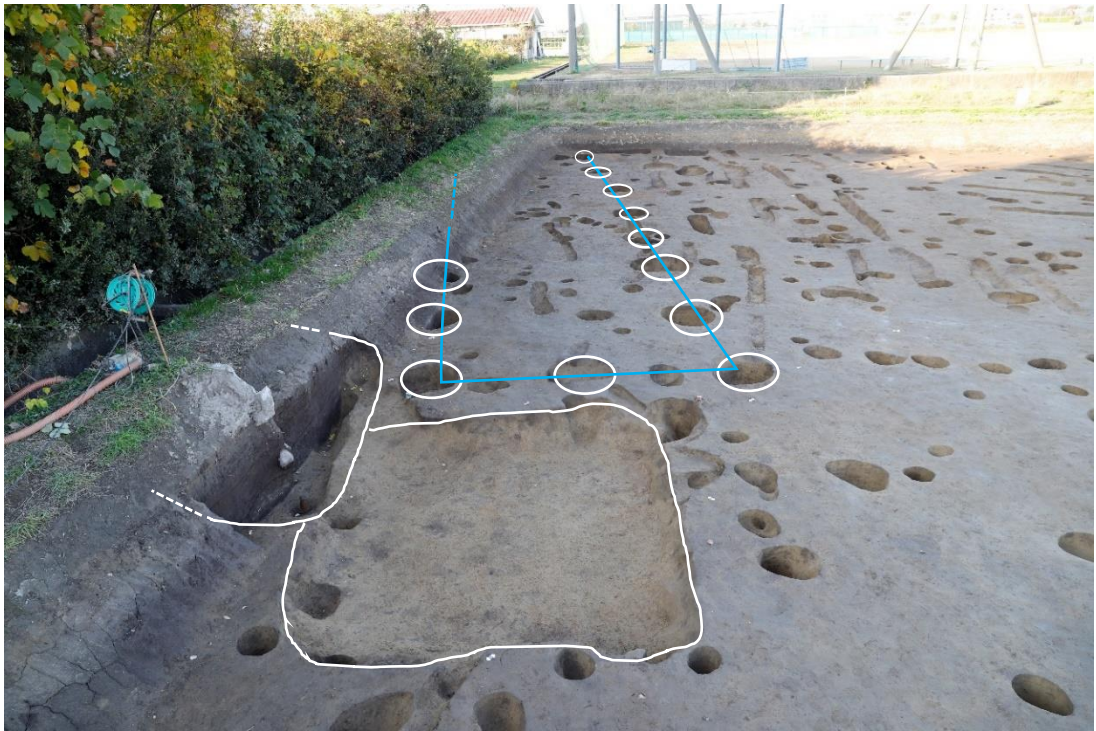
国史跡末松廃寺跡の東側に位置し、中林土地区画整理事業に伴い平成29年度から継続的に発掘調査を行っています。

令和4年度は区画道路及び調整池を建設する範囲の発掘調査を実施しました。どちらの調査範囲でも主に古代(奈良・平安時代)から中世(鎌倉・室町時代)の集落跡がみつかりました。特に調整池調査区では古代の大型の柱が並ぶ掘立柱建物や、^{すえき}須恵器や^{はじき}土師器が多数出土した竪穴建物、中世の掘立柱建物や倉庫などに使われたと考えられる竪穴状遺構と呼ばれる大型の穴などが複数見つかりました。

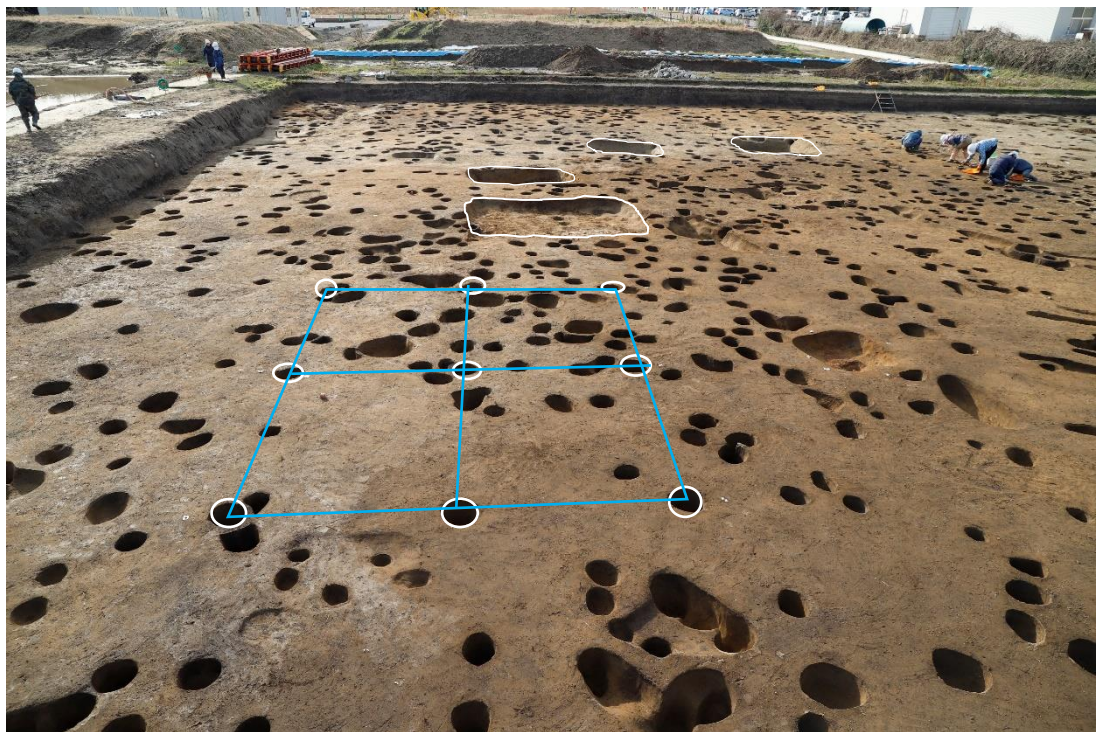
古代と中世のいずれの時期でも非常に多くの小穴が密集して掘られていることもわかっており、人の営みが活発であったことがうかがえます。



遺跡の所在地



古代の竪穴建物と掘立柱建物



数多くの小穴と中世の掘立柱建物・竪穴状遺構